

## 救急外来（初療室）での新人看護師教育の取り組み

キーワード：救急外来・看護展開・新人看護師教育

○今村守賀子 兵藤よしこ 研井礼子 後藤裕子（外来）

### I. はじめに

A病院では、新人看護職員教育プログラムが整備されている。新人看護師の目標は、ラダーI取得、厚生労働省が新人看護師教育研修ガイドラインに示している到達目標である。

救急外来では、あらゆる年齢・疾患を対象とし、短期間に患者・家族の情報を収集して、患者の重症度や緊急性を判断し、必要に応じて迅速に診察、検査、治療を開始できるように、看護師として適切な知識や技術が求められる。このように統合した能力が求められる救急外来では、今回で3度目の新人看護師の配属となる。

私たちは、過去2回の指導の中で、新人看護師の日々の看護の学びや疾患についての病態生理・アセスメントをどのように考えているのか把握が難しく、継続して指導するためにはどのようにすると効果的であるのか悩むことがあった。一昨年では、取り組みとして、新人看護師が日々の学びを紙面上に書いてもらい、新人看護師の成長と実地指導者がいない日でも新人看護師の学びを把握できるようにノートを作成した。その結果、新人看護師の状況を把握することができ効果的な指導につなげることができたのではないかと考えた。

そのことを踏まえて今年度は、①新人看護師の支援体制②受け持ち患者の看護③日々の看護の振り返り④評価的面接の4つに視点を置いて、救急外来での新人看護師教育について取り組みをしたため報告する。

### II. 研究目的

実施した新人教育の取り組みを振り返ることにより、救急外来において効果的な取り組み方法を検討する。

### III. 用語の定義

新人看護師：看護基礎教育研修直後、看護師免許を取得し、救急外来に就職した1年目看護師

### IV. 研究方法

#### 1. 対象者

救急外来に2012年4月に就職した1年目看護師であり、研究の同意が得られた計2名を対象者とした。

#### 2. 期間

2012年4月～2013年1月

#### 3. 方法

##### 1) データー収集

- ① 日々の看護の振り返りや月一回のプリセプターとの面接での言動・反応
- ② 日々の看護の実際

##### 2) 分析方法

新人看護師についての文献を参考に振り返りを行った

### V. 倫理的配慮

対象者に対して研究の趣旨と研究方法について口頭及び紙面にて説明を行った。研究への参加は任意であること、中止できることを説明し同意書を持って承諾を得た。

データーは研究終了後、速やかに破棄することを約束した。

### VI. 結果

新人看護師の言動、新人看護師への介入、新人看護師の行動変化は表1参照。



## VII. 考察

### 1. 新人看護師の支援体制

教育担当者や実施指導者がどれほど効果的に支援していても、新しい環境や役割への適応に四苦八苦している新人看護師は、スタッフのちょっとした言動などによって大きく傷つくことがある。だからこそ、学習サポートは、スタッフ全員で行う必要がある。

月に1回、管理者・教育担当者・実地指導者で、会議を開き、新人看護師の状況や新しい業務の導入時期などについて話し合いをした。また、休日・夜勤勤務では、新人看護師と関わったことのあるスタッフと勤務を組むなどの調整を行った。それらは、新人看護師が新しい環境や役割に適応できるよう新人看護師の支援体制や環境を整えることにつながったと考える。

また、新人看護師を指導する際、スタッフ間で指導内容を統一することは、新人看護師として混乱や不安を軽減するため重要だといわれている。

外来はスタッフ数が多く、新人看護師と接する事が少ない看護師もいる。そのため、実施指導者ファイル・申し送りノートの活用や朝礼や外来会などで、目標や現在の状況、指導の際の視点を随時伝えることで、教育担当者や実地指導者だけではなく、外来スタッフ全員が新人看護師の支援へ関心がもてるように工夫したことは、統一した教育につなげることができたと考える。

### 2. 受け持ち患者の看護についての支援

#### 1) 病棟訪問

新人看護師は、一緒に担当した先輩看護師と受け持ち患者の病棟訪問を行い、内容を専用の用紙に記録し、その後、新人看護師自身が訪問の結果や内容を伝達し、スタッフと共有していった。

新人看護師は、病棟訪問をすることで、入院後の患者の経過を知り、外来での対応について患者自身から実際に感謝の声や思いを聞くことが出来て、実施した看護の振り返りや評価につながると感じる事ができたと考える。

実際に、始めは、先輩看護師に促されて行っていたが、救急外来で受け持ち患者が多くなるにつれて、救急外来で見た患者は、どのような入院生活を送っているのかなど知りたくなり、新人看護師より主体的に訪

問することが多く、行動から評価できる。新人看護師に病棟訪問の目的を説明し、実際に入院まで受け持った患者の病棟訪問を行ったことは、継続看護の必要性や自分が行った看護の振り返りきっかけにつながったのではないかと考える。

#### 2) 看護展開

救急外来での、看護記録は経過記録が中心であり、アセスメントした内容が、記録できていないことが多い。日々の振り返りや確認だけでは、患者の状態をどのようにアセスメントし、理解できているのかまたどのような学習をしているのか把握できない現状がある。

そこで、救急外来で受け持った患者（脳出血、AMI、CPA等）で、ホットラインからのアセスメント、搬入時の情報からのアセスメント、初療でのアセスメント、実際に行った看護、患者の看護問題立案を文章化しまとめ看護展開を行った。

詹 小紅は、一つ一つの意味の獲得するための行動と行動の間の一連の連続こそデューイの考えるより望ましい経験なのである。換言すれば、それこそ完全なる経験である。また、デューイは「何らかの思考という要素を伴わなければ、意味のある経験はあり得ない」と述べているように、ひとつの完全なる経験では、必ず意味も伴うがゆえに、同時に思考も伴うのである。1) 看護展開実施後、「実施している時はアセスメントしているつもりだったが、実際レポートで振り返ると不足していることがわかった」と述べており、今回経験した症例について場面や状況に応じて、看護展開を行い、思考を整理することで、経験した症例をその後の看護に生かすことができるのではないかと考える。

#### 3. 振り返りについて（文章化・言語化）

救急外来では、その日の振り返りとして、必ず勤務したスタッフ全員で、アセスメントの内容や気になったことなど看護について言語化するようにしていった。

ペナーは、看護を語るということは、自分の体験した看護実践を理論の解説のみでは得られない看護の感性を刺激する効果があるといわれている。それは、自ら体験したことの再考であり、「自分の言葉で語る」ことで、自分の経験を意味づけることになるかと考える。つまり、何を経験し、感じ、学んだのかということが明らかになると考える<sup>2)</sup>と述べている。新人看護師だけ



でなく先輩看護師も看護を語りそれを聴くことで、先輩看護師の看護にも興味を示し、どのようにすればよかったのか自発的に助言を求めるなど自分の体験した看護の意味づけが行えた。今まで漠然としか認識できなかった事柄について学び、看護を再考し看護観を深めることにつながったと考える。

7月～9月の言動として「少しずつやっていったり、先輩からの助言や考え方を整理してもらおうと、やらないといけない事が明確になりました」との言動があり、日々の振り返りを行うことで、4月当初、曖昧だった知識や自己の課題が徐々に明確となり、継続して次へのステップアップにつなげることができたと考える。また指導者が新人看護師の状況を把握することができ、個人の状況に合わせて受け持ちを選択するような、個別性のある指導につなげることができたと考える。

#### 4. 月1回の評価的面接

プリセプティの育成は、どんな知識・技術・態度を教えるかだけでなく、新人看護師が自ら学び、知識や技術を獲得し成長するかにあると言われている。

北浦らは、評価とは、現時点でのアセスメントだけで終わるのではなく、これから何をすべきかという未来に向けた行動のための準備という位置づけとしてとらえることが妥当であるといっている。<sup>3)</sup>

新人看護師が、自ら面接の日にちを設定し、紙面上に学びと次への課題を毎月記録できたことは、新人看護師自身で学びや課題を客観的に見つけるきっかけとなり、学習の場につながったと考える。それと同時に、実地指導者も到達目標に向けての評価や具体的計画の修正を適宜行う事ができたと考える。

また、実地指導者は、新人看護師の状況を受け止めたうえで、思いを確認し、新人看護師自身で課題に気づけるようにリフレクション技法を用いた面接を行った。リフレクションとは、その人自身の実践に焦点をあて、自分自身の行為・感情・考え方・価値観などを強化し、「気づき」を高めることである。

リフレクション技法を用いることで、新人看護師が自己の状況を言語化し、おかれている問題に自分自身で気づき、さらに、行動の意味付けをすることで行動の変化を促すことが出来たと考える。

## VIII. 結論

1. 外来全体が、新人看護師の状況を理解し、新人看護師を支援する為には、情報共有できるよう支援体制を整える必要がある。
2. 病棟訪問を行うことで、新人看護師にとって継続看護の必要性の理解につながった。
3. 勤務終了後にメンバー全員で振り返りことは、
  - ①自らの看護の再考と意味付けにつながった。
  - ②感性を刺激し看護観を深めることにつながった。
4. 自分の行った看護を振り返り文章化することで、新人看護師の思考の整理と知識の向上につながり、その後の看護に生かすことができた。
5. 評価的面接を行うことで、新人看護師自身で学びや課題を客観的に見つけるきっかけとなり、学習の場につながった。

## IX. おわりに

本研究は、新人看護師2名を対象に、実施した新人教育の取り組みを振り返った。

今回は、一人ひとりに個別的な計画修正を行わずに、教育計画を実施することができた。

新人看護師の人格特性や学習習得タイプによっては、個別的な計画が必要な場合があるため、新人看護師の特性を見極め、管理者や教育担当者話し合いながら、計画・修正・実施していく必要があると考える。

### 《引用文献》

- 1) 詹 小紅：早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 19号-2 2012年3月 P157
- 2) パトリシア・ベナ-：臨床知識の開発および目に見える看護実践のための「語り」の役割、1999
- 3) 北浦暁子/渋谷美佳：プリセプターシップを変える新人看護師への学習サポート、医学書院、2006

### 《参考文献》

- ・中山由美：新人看護師が期待する指導者からの支援-救命救急領域に勤める新人看護師へのインタビューを通して-、2011
- ・北浦暁子/渋谷美佳：プリセプターシップを変える新人看護師への学習サポート、医学書院、2006
- ・安酸文子：目からウロコの新人ナース・プリセプティ指導術、メディカ出版、2010



- 目標：1. 職場の雰囲気に関れ、社会人としての基本的態度・マナーを身につけられるように支援する。  
 2. 根拠に基づき、患者の安全安楽を理解し、確実な看護技術ができるように支援する。  
 3. 初療場面における患者の状況を理解し、看護展開ができるように支援する。

表1)

	新人看護師の言動	新人看護師への介入	新人看護師の行動の変化
4月 5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急外来の雰囲気がかかるようで、わからないよう。</li> <li>・見学をただするのでなく、何で実施しているのか根拠を考えた、確認したい。</li> <li>・救急外来は、その日によって患者の人数・疾患が違い、いろんな人が来る場所だと思った。</li> <li>・技術チェックはしなないといけないと思ってるが、あわただしいし緊急である。自分がすると時間もかかる。やっていいの不安になり先輩に声かけられました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急外来の特徴、業務のオリエンテーションを行った。</li> <li>・看護技術の習得は、日常生活援助から実施し、患者に支障のある技術は、モデルを使用し、シミュレーションをおこなった上で実施した。⇒外来患者が対象であるため。</li> <li>・先輩看護師とペアで軽症の患者を受け持ち、技術習得、看護記録を実施した。</li> <li>・日々の学びを紙面に記録するよう促した。⇒その日あったことを整理するため</li> <li>・5月までは週ごとに新人看護師の目標・計画を立案し、新人看護師・外来スタッフに伝達した。⇒順を追って技術修得ができるように。指導内容が統一できるように。</li> <li>・技術チェックなど習得する際、4・5月は先輩看護師から声をかけ、徐々に新人看護師より主体的につたえよう促した。⇒メンバーシップが取れるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学びを紙面に記録することができた。</li> <li>・技術チェックは、先輩看護師から促され習得していたが、新人看護師から積極的にチェックを受けていた。</li> <li>・ラダー習得が必要でできない検査などのアピールができるようになった。</li> </ul>
7月 8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ちをするようになり、あれもしないと、これもしないと、とやることが多くなるようになり、声かけなどをお願いしたり、少いすずつやっていったり、先輩からの助言や考え方を整理してもらおうと、やらなないといけない事が明確になりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人看護師メインで軽症患者を受け持ち、相談役としてその日のリーダーが新人看護師を担当するようにした。⇒新人看護師が誰に相談すればよいか分かるように。</li> <li>・病棟訪問の目的を新人看護師に説明し、実際に入院まで受け持った患者の病棟訪問をおこなった。⇒自分が行った看護の振り返りや評価ができるように。</li> <li>・休日業務のオリエンテーション。勤務者、業務内容の調整を行った。</li> <li>・患者が搬入されるまでの間考えられる初療でのアセスメントを確認した。</li> <li>・月ごとの学び、来月の課題を紙面に挙げてもらい、面接を行った。⇒新人看護師自身で自己の課題を見つけてくれるように。</li> <li>・月ごとに新人看護師の目標を設定し、外来スタッフに伝達していった。その後も継続していった。⇒統一した指導ができるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を見つけて、技術練習を行うことができた。</li> <li>・病棟訪問は先輩看護師から声をかけ行くことが多かったが、人数を重ねるごとに新人看護師より主体的に訪問できた。</li> <li>・その日の感想やわからなかったことだけでなく病態生理を学習し文書化する事ができ、わからなかった事は、教育担当者や実地指導者に聞くことができた。</li> </ul>
10月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急の際は緊張しました。</li> <li>・処置をすることに一生懸命になってしまい、声かけなどを頑張りたい。そのためにも適切な看護が必要ですね。</li> <li>・もう一回バス（AMI やI-PA など）を振り返ります。</li> <li>・自分でマニュアルの訂正を行うと身につくと思うので、やりたいです。</li> <li>・夜勤では、看護師の人数が少なく、ウォークインも少ないといけなないので、自分の受け持ち患者だけでなく、周りの状況を見て、何が出来るのかを考えながら行動しないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急性がある患者の看護、複数の患者の受け持ちが出来るよう今後の予測を確認し、タスクマネジメントの視点で指導した。⇒タスクマネジメント能力をつけるため</li> <li>・夜勤業務・選出業務のオリエンテーション。業務の開始、勤務者の調整。</li> <li>・夜勤業務開始の際は、新人看護師が出来る処置や受け持ったことのある症例を紙面に挙げ、夜勤メンバーが分かるようにした。</li> <li>・夜勤や休日勤務終了後には、新人看護師と関わったスタッフに状況を聞き把握した。⇒新人看護師の状況を把握するため。</li> <li>・重症患者を受け持った際に特に必要な看護技術の学習をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の経験を重ねるにつれ、アセスメント内容、報告などを自らリーダーに伝え、助言を求められることができるようになった。</li> <li>・以前に比べ報告、連絡、相談をリーダーや教育担当者、実地指導者にできるようにになった。</li> <li>・自分が受け持っていない時は、以前よりも全体を見て、外回りを進んで行うようになった。また、空いた時間は、他の受け持ち患者の処置や検査案内を手伝ったりすることができるようになった。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が出来ていない所がわかった。次振り返ったことを実施したい。</li> <li>・実施している時はアセスメントしているつもりだったが、実際レポートで振り返ると不足していることがわかった。</li> <li>・（振り返った症例の疾患が来たとき）これは、振り返ったから出来るとおもった。（初めてCPAを受け持った時）怖かった。</li> <li>・BLSの研修で知識はあっても、皆に伝えるとなると難しいですね。こんなにもすることがあるなんて知りませんでした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持った患者の症例別に救急外来での看護展開を行った。ホットラインからのアセスメント、搬入時の情報からのアセスメント、初療でのアセスメント、実際に行った看護、患者の看護問題立案を文章化しまとめた。</li> <li>・CPAなどの重症患者をメインで受け持つ。</li> <li>・新人看護師主催のBLS勉強会の計画。⇒人に教えることで知識を深めるため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BLS勉強会では事前に内容や準備することなど打ち合わせし、新人看護師中心に企画・運営から行っている。</li> <li>・思いや感想など自由に話せるようになった。</li> </ul>